

1. 資料紹介

(1) 大東京風俗資料研究会關係資料 (10870490)

「大東京風俗資料研究会」とは、喜多川周之氏が、1937年（昭和12）に始めた研究会で、移りゆく東京の風俗を研究し、過去の記録を保存継承しようとするもの。佐藤健二「民間学者としての喜多川周之」（『東京都江戸東京博物館調査報告書第22週 喜多川周之コレクション』（東京都江戸東京博物館2011））を参照。



1-1



1-3

私たちは幼ないころ口にした遊び唄をふと思ひ浮べることがないでせうか。
第一回の談話會は話題を兒童の遊戲唄として、それぞれの過した時代を語り
併せて御手許の關係資料の公開を願ひ、相互研究の實に教したいと存じます。

日 時 二月十四日（日曜）午後六時半—九時半
處 フーキヤ茶房附上（林所區緑町一ノ十九條町交又點より）
茶菓費 金參拾錢 當日御持參
（優良記念章を向つて東側半丁電車通）

御來席をお待ち申上げます。

昭和十二年二月十日

東京市江戸川区小岩町三丁目一九三一番地

大東京風俗資料研究會

1-2



助之榮村田・夫正慈久・紅葉谷ヶ磯・風萩崎山・雲 東奔 りよ石
民謡の男久喜御伊・之川川多喜・花垣藤藤・刺蝟伊榮・櫻耳山吹

大東亞民俗資料研究會

第一回談話會報告

本會第一回談話會は「兒童遊戯」の題目の下に、二月十四日午後六時半より、本所第四樓にて開演。先づ山崎淑夫氏に明に春ふれとてして招指びの儀式、久松正夫氏の菰草に子孫の福を祈る儀式、一山氏の母の墓事に関する古書の内容、井原忠氏の本部の歌に於ての母の出給、藤岡氏の秋田の娘に對しての母氏の解説等、相互の資料的考察の補助として、會半ばは一調和記念巻をばし寫眞等の奉助を受け、更に一調和記念巻をばし、十時餘の懇話に終つたが、宮内省の氏から止むべき所の爲めの缺出通知と、御多忙のため、川島篤義、磯野龍溪、横岡國光、高野洋一等の氏が見えられぬのは遺憾となつた。

會日下編輯中、短評發行の豫定。

東京市目黒區南町新井ア一九二一

大東亞民俗資料研究會

1-4



1-5

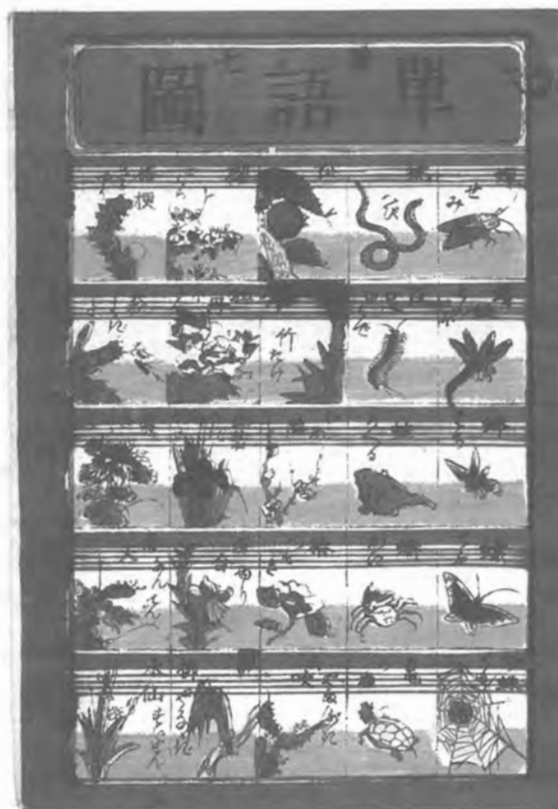


1-7

文人譚奇會
機關誌發行

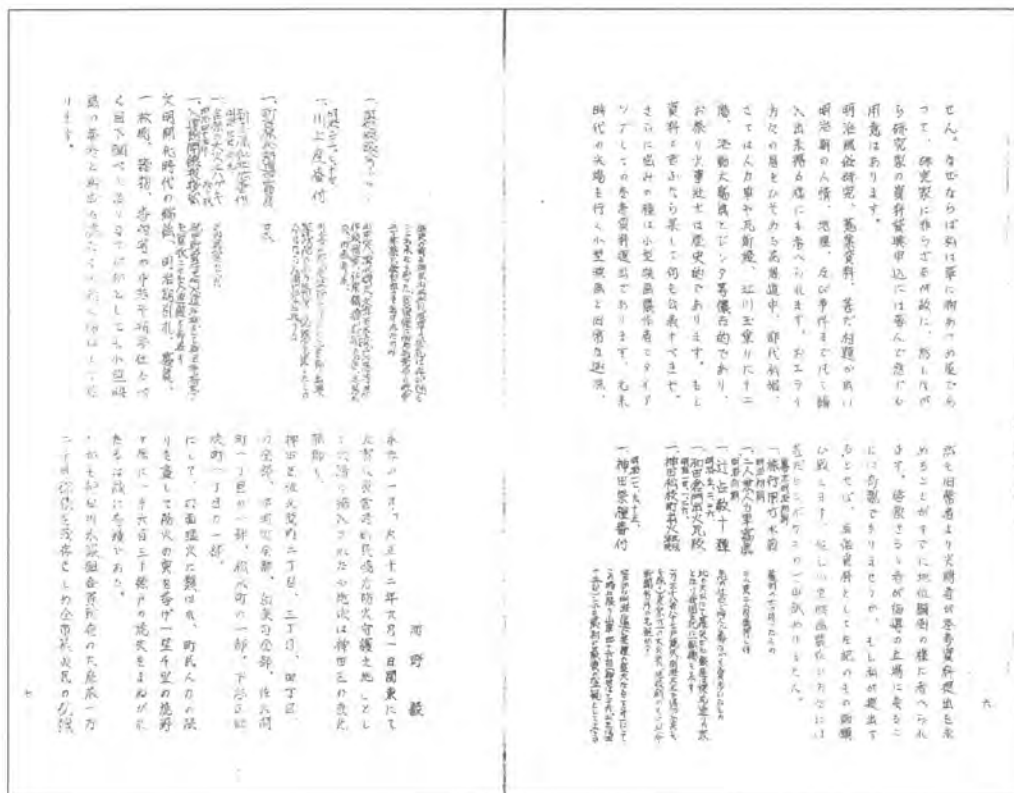
秋山夏樹氏を中心とする東京文人譚奇會では二十日夜須田町アメリカン・バーカリー二階で第一回例會を開催、大東京風俗資料研究會で鳴らしてゐる喜多川周元、藤塚涯花を始め間瀬顯一、速水重雄、山口正雄、喜多川周正の諸氏出席、一切打ちくつろいで歡談敷刻、十一時頃散會した同夜の席上機關誌を出す事が話題に上り誌名は「市井談議」に内定、四月二日頃發行、爾今毎月第三日曜を期して例會を開催する事となつた

1-6

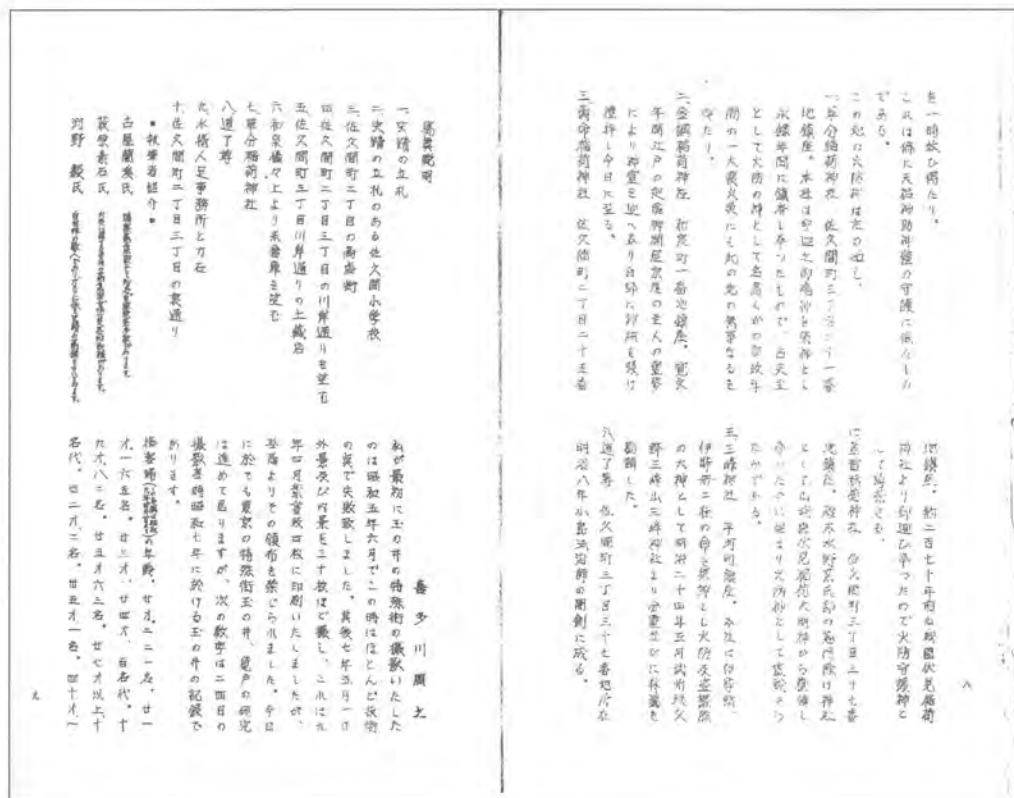


本繪佚子の頃年十三歳明
(複製)

1-8



1-11



1-12

契約、金銀、無契約八九一名、三ヶ年目八名、
二ヶ年二七名、五ヶ年二名、一ヶ月一名、
共此、
此に附する者十五名、子供に附する者十六
名、
教育程度、小学校卒業四九七名、小學校中途
退學三〇七名、佛教教育八一名、女學校畢業
五名、女學校中途退學一五名、他小學校外
卒業、
前年度、新南極八五名、百圓以下二四名、
二百圓—四百圓度四八二名、四百圓—六
百圓以下二六名、千圓—一千五百圓二名、
二千圓以下四名、新南二百五十圓一名、
前年度計二〇四六三〇圓

[illegible][illegible]

衣園に當る。其動機を脱け難く（件考）
 欄は上に雲霞、其出年月日、投稿の職業、
 字號、其籍及び生處との線附、凡そ、生年
 月日、他者欄があり、其は東京主との所載
 處分、異動欄のあらまゝであります。レビ
 し私共が之を別するところは可成りあり
 きたり外却よりうかがひ知る事の出来な
 り。特約欄の幾處になつては又苦心に研
 究を附けて居ります。街の娯樂館、自費、
 家屋の入り、小窓の窓花は、かう出附角
 所等、の様に、詩歌に現はれたるの共考者
 とも類せたりと思ひ、こゝは主として天武
 四人は説に當つて居ります。

[illegible][illegible]



2-5

目次（原稿順）	頁
▽国者の戯画（ア）	1
▽日ハ国を見ない浮世絵（一）	3
▽今更な摺物	5
▽秘 布咄オアフ断防衛要図	11
▽ヲ 無筆道所案内の図に就いて	12
▽明 沿いのピカ	17
▽あとかき	19
▽広告の夏	21

2-6



2-7



金印原寸大・入丁ノ紫色、一錢出屋切手藍色、三錢切手赤色、

城はがきと金銀時代であり、明治初、戊午のころ
 財使友金もあつたことでしょうが、殺人でも、ずい
 分金儲けであつたこと、捜索の功手やべん、ア
 作といふ、いろいろ許可者ナンで但書をつけてゐる
 ところ、此のことはいふまでもなく、この「松」は、
 に脂雪（はみません）とされた郵便切手は、それと
 が民間の作製で、松板として印刷されてゐます。
 小幡の代に捜索功手も、自分元には使つたら
 テイ、この省公認のシステムが押されて、配達さ
 れたことゝおぼしめされてゐます。
 昭和一年の時代、まだ明治のつり合ひが、残つてゐ

17

第24期	第7号	月刊	昭和十九年十一月二十三日發行 船政俱樂部第二卷第三号 <small>(昭和四年四月十一日)</small> 著者 船政俱樂部同人 編集 鈴木正三 印刷所 岩田印刷所
	不評議制	非貴士	

☆資料解説

マダニ、蛇、蜘蛛等にはムコロリ送付の紙を貼る。吾亦ふらんき書、解法は下に示すに略す。

ワ裏紙品、安永二年の大徳連の五股、とうけ部あり。船渠は右と同断

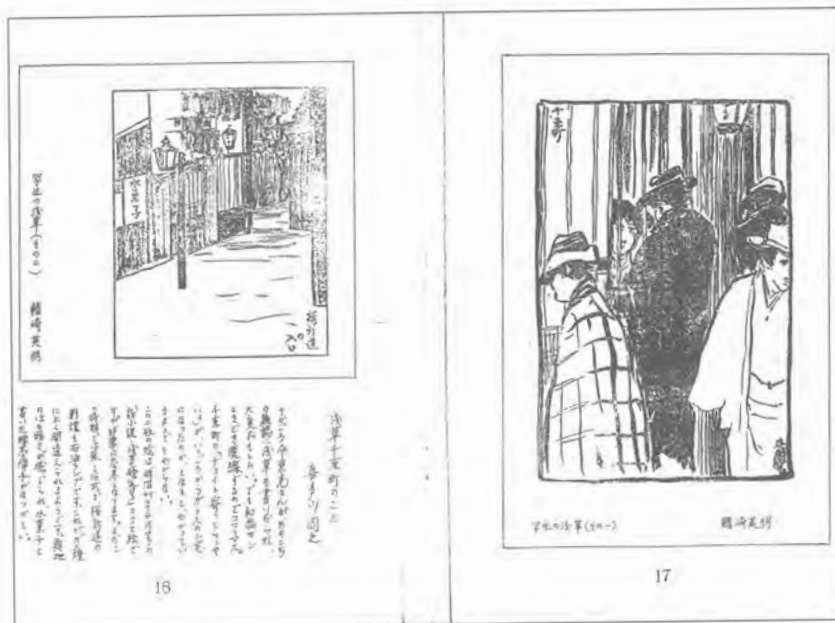
2-8



2-9

目次 (原稿着順)		頁
▽ 国芳の戯画	稲垣進一	1
▽ 変な贈物	岩田豊樹	3
▽ 俗・歌謡の字	中山栄三	5
▽ 変な書(本)出版・小林龍雄(数)	村山文彦	11
▽ おかしなおかしな話	一瀬幸三	13
▽ 浅草千束町の二上	喜多川周之	17
▽ あじがき		19
▽ 広告の面		20

2-10



2-11

限定 24 部	部内	20 号
昭和五十年四月六日発行 狂菟倶楽部第三巻第一号 (昭和四十九年十二月50年4月) 著者 狂菟倶楽部同人 会長 東京都杉並区 山田豊樹		
不許複製		非賣品

2-12

「狂菟倶楽部」 第三巻第一号 (1975年 (昭和50) 4月6日)



2-13

目次(原稿順)

▽岡山・田中上座敷園……折込回共	吉田豊樹	1
▽国等の戯画(7)	編浪道一	4
▽大黒屋平吉(大平)出版、小林清親、錦絵年表(正)	村山文彦	6
▽浅草の魔窟本二種	喜多川周	14
▽おかしな刷り物	一頼等三	16
▽史料・馬喰町大町丁の宿屋と書肆	中山隆二編	20
▽おとしがき		24
▽おとしがき		25

2-14



2-15



喜多川上峨山は、すでに明治35年8月「浅草の魔窟」を上梓して、これが、
これは、その第二種で、同35年8月出版。おとしがきの内容で、両方、
ほかに両書が10巻、内容はより、局舎に混同資料としての価値がある3本3本。

14

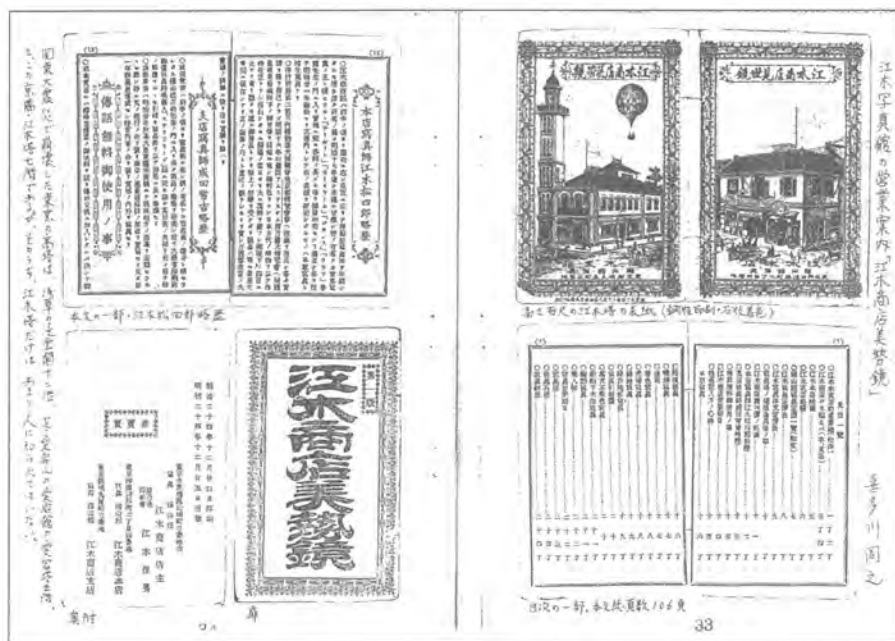
「狂菟倶楽部」 第三卷第二号 (1975年 (昭和50) 8月23日)



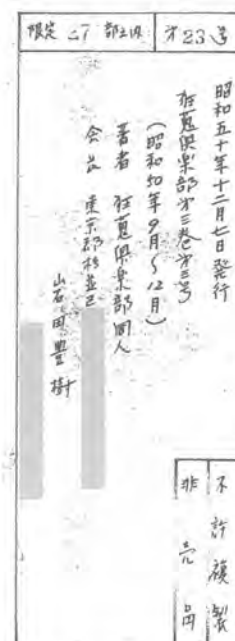
2-16

目次 (原稿着順) 目	
▽ 佐古慶三著の日本	吉田孝樹
▽ 周芳の戯画 (10)	稲垣進一
▽ 道仁の狂画	打山三彦
▽ ハンナ刷物	神楽起一
▽ 愛蔵版の更	山下一和正
▽ ニッポンの能	如藤金一
▽ 八木真館の営業案内	中山愛之輔
▽ 江戸の江木	喜多川周之
▽ P. R. の良	
	37 35 3
	27 21 17
	5 上 (前)

2-17



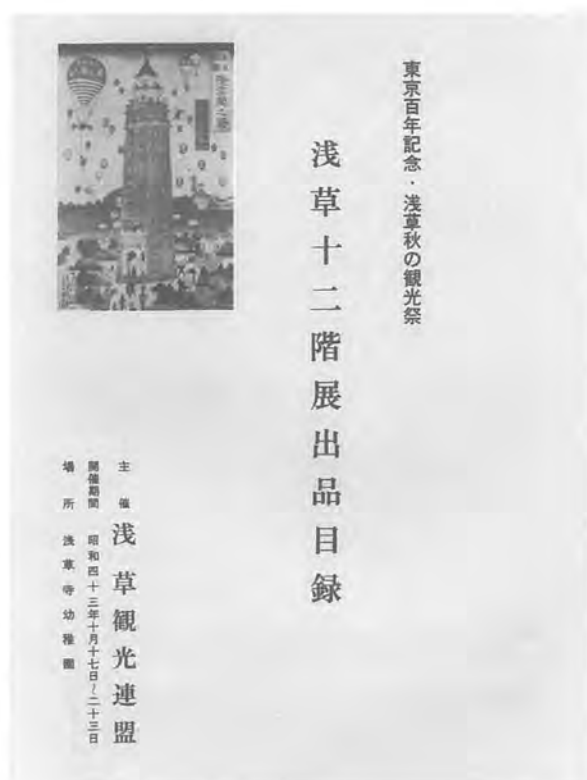
2-18



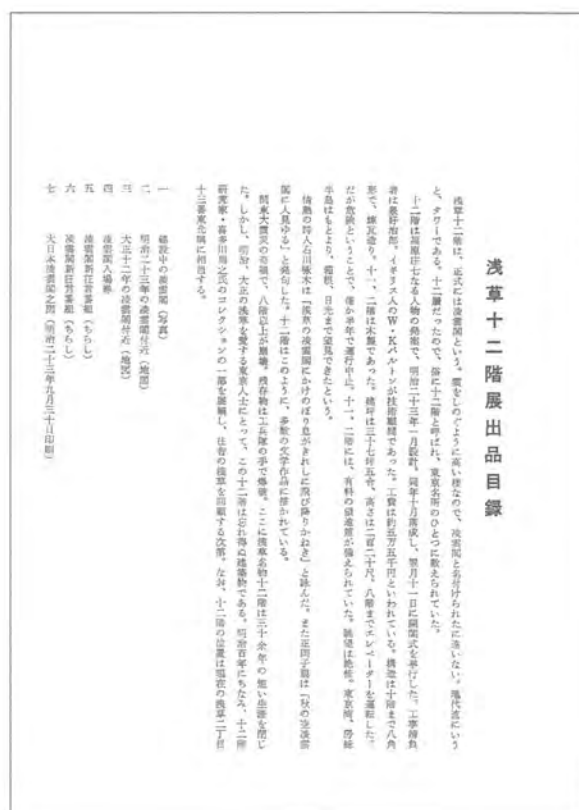
2-19

(3) 喜多川周之氏がかかわった浅草関係の展覧会関係資料（10870490）

1968年（昭和43）は、明治百年にあたり、近代日本を見直すブームが起こった。そのなかで、近代の浅草をテーマとした展覧会が台東区などによって主催され、喜多川周之氏は、それらの企画に係り、また、自分の所蔵している資料を展示している。



3-1



3-2

「東京百年記念 浅草秋の観光祭 浅草十二階展」（浅草観光連盟 1968年（昭和43））

八	志ん所十二階 みのり 昭和二十四年四月印刷
九	浅草公園遊覧図 昭和二十四年一月印刷
十	浅草公園遊覧図 昭和二十三年十一月印刷
十一	浅草公園遊覧図 昭和二十三年十月印刷
十二	浅草公園遊覧図 昭和二十三年十月印刷
十三	浅草公園遊覧図 昭和二十三年十月印刷
十四	The ryokushu in Asakusa park Tokyo (昭和二十三年十月印刷)
十五	浅草公園遊覧図 昭和二十三年十月印刷
十六	浅草公園遊覧図 昭和二十三年十月印刷
十七	浅草公園遊覧図 昭和二十三年十月印刷
十八	浅草公園遊覧図 昭和二十三年十月印刷
十九	浅草公園遊覧図 昭和二十三年十月印刷
二十	浅草公園遊覧図 昭和二十三年十月印刷
二十一	浅草公園遊覧図 昭和二十三年十月印刷
二十二	浅草公園遊覧図 昭和二十三年十月印刷
二十三	浅草公園遊覧図 昭和二十三年十月印刷
二十四	浅草公園遊覧図 昭和二十三年十月印刷
二十五	浅草公園遊覧図 昭和二十三年十月印刷
二十六	浅草公園遊覧図 昭和二十三年十月印刷
二十七	浅草公園遊覧図 昭和二十三年十月印刷
二十八	浅草公園遊覧図 昭和二十三年十月印刷
二十九	浅草公園遊覧図 昭和二十三年十月印刷
三十	浅草公園遊覧図 昭和二十三年十月印刷
三十一	浅草公園遊覧図 昭和二十三年十月印刷
三十二	浅草公園遊覧図 昭和二十三年十月印刷

3-3

三十三	浅草公園遊覧図 昭和二十三年十月印刷
三十四	浅草公園遊覧図 昭和二十三年十月印刷
三十五	浅草公園遊覧図 昭和二十三年十月印刷
三十六	浅草公園遊覧図 昭和二十三年十月印刷
三十七	浅草公園遊覧図 昭和二十三年十月印刷
三十八	浅草公園遊覧図 昭和二十三年十月印刷
三十九	浅草公園遊覧図 昭和二十三年十月印刷
四十	浅草公園遊覧図 昭和二十三年十月印刷
四十一	浅草公園遊覧図 昭和二十三年十月印刷
四十二	浅草公園遊覧図 昭和二十三年十月印刷
四十三	浅草公園遊覧図 昭和二十三年十月印刷
四十四	浅草公園遊覧図 昭和二十三年十月印刷
四十五	浅草公園遊覧図 昭和二十三年十月印刷
四十六	浅草公園遊覧図 昭和二十三年十月印刷
四十七	浅草公園遊覧図 昭和二十三年十月印刷
四十八	浅草公園遊覧図 昭和二十三年十月印刷
四十九	浅草公園遊覧図 昭和二十三年十月印刷
五十	浅草公園遊覧図 昭和二十三年十月印刷
五十一	浅草公園遊覧図 昭和二十三年十月印刷
五十二	浅草公園遊覧図 昭和二十三年十月印刷
五十三	浅草公園遊覧図 昭和二十三年十月印刷
五十四	浅草公園遊覧図 昭和二十三年十月印刷
五十五	浅草公園遊覧図 昭和二十三年十月印刷
五十六	浅草公園遊覧図 昭和二十三年十月印刷

3-4

「東京百年記念 浅草秋の観光祭 浅草十二階展」(浅草観光連盟 1968年(昭和43))



3-5



3-6

「浅草寺五重塔完成記念特別企画 浅草今昔祭」（浅草観光連盟・台東区教育委員会 1973年（昭和48））



3-7

うえの・あさくさ文明開化展出品目録			
〔出 品 物〕	〔年 代〕	〔作 者 等〕	〔所 蔵 者〕
▶上野博覧会関係①			
丸瓦 浅草文庫江戸丸瓦	明治7年	三条美英館	東京国立博物館
寛永印 浅草文庫蔵書印	〃	〃	〃
写真 浅草文庫庁舎	明治8年	〃	〃
〃 浅草文庫事務所金庫	〃	〃	〃
〃 内務省大久保利達よりの上野博覧会会館通達	明治9年	〃	〃
錦絵 上野公園開業式図	〃	尾崎源	〃
地図 東京上野公園地内開闢図	明治10年	地味局量地課	〃
錦絵 東京名所之内 上野公園地内開闢博覧会開闢図	〃	阿部源次郎	〃
銅版 第一回内閣勸業博覧会会館案内図	〃	〃	〃
錦絵 内閣勸業博覧会会館案内図	〃	尾崎源	〃
〃 大日本内閣勸業博覧会会館案内図	〃	國朝源	村山文彦氏
〃 上野山内一覽之図	〃	河崎源次郎	〃
設計図 当初の上野博覧会設計図	明治11年	コンドル製図	〃
銅版 考証図説	明治12年	〃	村山文彦氏
銅版 完成したコンドル設計の博覧会	明治14年	〃	〃
写真 第二回内閣勸業博覧会会館案内図	〃	〃	〃
錦絵 第二回内閣勸業博覧会之図	〃	越川源次郎	〃
〃 上野公園内閣勸業第二博覧会美術館並館内閣勸業之図	〃	三代式重興	〃
銅版 第二回内閣勸業博覧会会館案内図	〃	〃	〃
錦絵 第二回内閣勸業博覧会会館案内図	〃	小林源次郎	村山文彦氏
〃 第二回内閣勸業博覧会会館案内図	〃	〃	〃
銅版 第二回内閣勸業博覧会会館案内図	〃	〃	〃
木版 東京上野公園水産博覧会	明治16年	〃	〃
錦絵 上野公園地全景	明治22年	橋本源	〃
写真 上野公園樹木一覽	明治23年	〃	〃
資料 第三回内閣勸業博覧会工務課図説	〃	清水源次郎	喜多川周之氏
石版 第三回内閣勸業博覧会会館案内図	〃	〃	〃
写真 参考図	〃	〃	〃
錦絵 上野公園地第三回内閣勸業博覧会之図	〃	勝月源	村山文彦氏
〃 東京勸業博覧会全図	明治40年	〃	〃
石版 東京勸業博覧会全図	〃	〃	村山文彦氏
〃 東京勸業博覧会正門夜景之図	〃	〃	〃
〃 東京勸業博覧会会館夜景之図	〃	〃	〃
〃 東京勸業博覧会会館参考之図	〃	〃	〃
〃 東京勸業博覧会会館月景之図	〃	〃	〃
〃 東京勸業博覧会第一会館内閣勸業之図	〃	〃	〃
〃 東京勸業博覧会外閣勸業之図	〃	〃	〃

3-8

「うえの・あさくさ文明開化展」(台東区教育委員会 1975年(昭和50))

絵ばぐち 東京絵画博覧会	明治40年	村山文彦氏
入選券 東京絵画博覧会入選券	"	"
報告書 東京絵画博覧会事務報告書	明治41年	東京都公文書館
" 東京絵画博覧会紀行	"	"
写真 動物園入口	明治44年	"
新聞 東京大正博覧会会誌	大正3年	"
報告書 東京大正博覧会事務報告書 下巻	大正5年	東京都公文書館
写真 平和記念東京博覧会写真帖	大正11年	"
石版 平和博覧会会誌	"	村山文彦氏
報告書 平和記念東京博覧会事務報告書 下巻	大正12年	東京都公文書館
地図 上野公園開闢時パノラマ配置図	"	"
写真 震災前の博物館本館	"	"
" 震災で破壊した博物館(博覧会の興隆) 正面	"	"
石版 海大正記念東京博覧会第一会報第二会報	昭和3年	村山文彦氏
報告書 戦大正記念東京博覧会協賛会事務報告書	"	東京都公文書館
" 戦大正記念全国協賛会東京支店事務報告書	昭和4年	"
写真 戦時下博物館の閉鎖(下巻・金巻不介先生)	昭和12年	"
▶明治の建築展覧会◀		
写真 上野動物園	"	"
" 遊樂館	"	"
" 雲天閣	"	"
" 雲天閣前庭	"	"
▶浅草十二間館展覧会◀		
錦絵 東京市金亀山浅草寺五重尊容塔之間	明治19年	浅草国史館
" 役所市街表裏の塔	明治20年	"
" 吾妻新橋金亀山真景及び木造富士観音堀絵巻浅草築山図	"	正木清彦氏
" 御朱山富士山南面穴	"	浅草国史館
" 東京市街吾妻新橋之間	年忌図	"
広告 富士山観音堀案内	"	正木清彦氏
写真 木造富士山二景	"	"
" 大正浅草園	明治22年	"
錦絵 浅草公園浅草園登風閣西六	明治23年	国史館
" 浅草園勝景穴六	"	"
広告 浅草園風景ピカ 2点	"	"
錦絵 東京北所浅草公園観音式景	"	"
" 浅草公園浅草園之間	"	竹東園
" 東京北所之内金亀山浅草寺真景	"	"
" 風船遊覧有景	明治24年	吾妻園
資料 観音式景	"	"
錦絵 日本四名所十二間見たとて	"	"
" 浅草公園浅草園之間	"	"

3-9

石版 渡部聖美人 3点	明治24年	喜多川寛之氏
銅版 日本之萬葉表都図(こよみ)	"	"
銅版 浅草公園遊覧之図	"	尾花周
写真 設計者ウイリアム・K・バートン肖像写真	明治29年	小川一真撮影
コピー バートン関係資料 5点		"
資料 バートン関係図画「あやめさん」ほか3点		"
絵巻 五郎句の内文月	明治27年	荒華斎
石版 浅草遊覧図	明治34年	"
・ 浅草公園之夜景	明治40年	"
・ 東京風景十二景	大正5年	鎌田一雄画
美術館 浅草美術館開館造形	大正8年	"
写真 浅草十二層地獄から観望まで(動物と遊楽) 22点		"
・ 大正12年9月1日午前11・40分頃(震災直前)の十二層	大正12年	阪井実氏撮影
地図 遊覧開始年図の付添資料(観望時と観覧後)		"
紙打本「浅草の灯」(日本橋)表紙の十二層 4点		"
新聞 新聞留置き「石版東京絵巻」(永井電報)ほか22点		"
模写 遊覧図模写		浅草寺

※ 会場の都合で展示の一部を変更することがあります。

3-10

う え の 文 明 開 化 展
あ さ く さ

時代の移り変わりのなかに、台東区を見直そう！郷土を
再認識しよう！——江戸から明治の新しい時代を迎えて、
そのとき、近代化の最先端の場となつた、わたしたちの
上野、浅草。

今回は、その当時から代表する〈上野博覧会と浅草十二
階〉にスポットをあてて、文明開化の源流を探ってみま
した。みなさんお誘いあわせての、ご来場をお待ちして
おります。

と き 昭和50年11月5日(水)→11月9日(日)
と ころ 台東区役所 9 階

講演と映画 / 11月8日(土) 午後12時30分から
台東区文化財調査委員 喜多川 周 之 氏
NHKリポーター
映画〈上野の四季〉

入 場 無 料

主 催 台東区教育委員会

電話 842-3311 内線523

3-11

「うえの・あさくさ文明開化展」(台東区教育委員会 1975年(昭和50))

■主催 台東区教育委員会

あさくさ湖堤跡見

● 都市化への波 塩屋は藤沢川と共に生き続けている。東京の近代化に、その両河川の役割が大きな役割を果たした。江戸からの物資運搬、豆腐屋さんの豆腐屋さんの歴史を背景として生活してきた。海へ入れば大きなことでもあった。しかし近代化は、そういうことと違っておなじ社会のようである。両河川の長年にわたる都市化の波があるというものである。

四 品 四 部

(旧 品 名)	(年 代)	(出 所)	(所 蔵 先)
▶ 調鐘の古号			
順治月克書鑑立案	高麗時代		保元寺
・ 比呂玄義章	小探明時代		〃
順祖金字御文八千張御抄	〃		〃
保元寺之鐘銘			〃
不興の御札	弘化寺所		〃
通念殿	明治寺所		〃
御尊元二十六日不興寺寺元	明治寺所		〃
不興堂瓦			〃
古銅幣	寛永寺鐘楼の一隅		〃
▶ 鐘乳、仏事			
順治大母持焼(子製)	文正11年	古来の増設、御中に此所のおとな	教團第三法門
順治寺(弘安)	文政5年所	ごとも御書協同になる	〃
順安寺持焼	明治寺所		〃
文林堂	江戸末型		〃
小倉百人一首	〃	江戸城大奥に伝えられた御人、墨蹟に	〃
金堂瓦	〃	取り入れの記念にもなつた	〃

— 132 —

黒豆歌	〃	〃	〃
知事宛（本）	〃	〃	〃
婦人形（道具類）	〃	〃	〃
重箱（ふくき付）	明治9年	〃	〃
▶生活資料			
<食料類>			
佐喜御用帳（粗紙）	江戸末期	江戸城納入米の帳り	〃
香米神田三番紙香板	嘉永5年	〃	〃
米拾遺表	嘉永年間	〃	〃
白米標準相場帳紙表	大正2年	〃	〃
食の録	明治初期	〃	〃
祝金屋主人（写真）	江戸末期	祝金屋は東城米店屋号	〃
祝金屋米店（〃）	大正4年	〃	〃
<着伏類>			
受領書	江戸末期	江戸城紅雲山内祝金屋	〃
海苔帯	嘉永6年	〃	〃
羽衣はがき	明治9年	向原郡松道連向祝金屋（電報手）	〃
短袴	明治12年	東京府対祝金屋	〃
花邊紙西の部（見立表）	明治初期	〃	〃
金貨箱（らし）	〃	〃	喜多川周之氏
海軍輸入帳簿	明治28年	〃	〃
新着包紙紙	明治時代	〃	東城隆之助氏
感謝状	大正12年	関東大震災の救済につき	〃
<道具類>			
菓子器	江戸末期	眞井隆盛家よりの品。造一松	〃
〃	明治末期	小松家家よりの品。野立用	〃
敷物	大正5年	有馬家よりの品	〃
汁器	弘化3年	〃	〃
煙草入	江戸末期	〃	〃
鉄入	〃	はがねの鏡あり	〃
金貨箱	〃	小判入	小島一朗氏
弁当入	〃	〃	東城隆之助氏
一寸橋	明治時代	〃	〃
一寸橋	〃	〃	〃
活かし	〃	〃	〃
印紙	明治16年	〃	〃
通子札	〃	万延、慶応、明治の3点	〃
赤十字章章	明治21年	〃	〃
時香	宣統4年	〃	〃
赤十字章一貫（本）	宣統3年	橋場の騒あり	小島一朗氏
鳥家園宝記（〃）	宣統3年	生活録典	東城隆之助氏
簡利	明治時代	橋場鳥屋の名あり	〃
小電灯水	江戸末期	〃	榎本孝雄氏
洗面水浴桶	明治時代	筒物製獅子口の型	〃
花器	昭和初期	水野の茶箱標	東城隆之助氏
小皿	〃	〃	〃
小鉢	〃	〃	〃

3-14

▶橋場の騒音			
鉄道平楽図（家下）	天保6年	写し	喜多川周之氏
鉄道の状（新）	江戸末期	鉄道跡より出る	東城隆之助氏
▶鉄道で見る橋場			
江戸自慢三十六美観橋雪中	元治元年	広重、豊国画	国立中央図書館
江戸名所満洲川橋場のわたし	〃	広重画	〃
橋場のわたし	〃	〃	〃
満洲川船遊	〃	栄之画	〃
橋場の夕暮	明治12年	清國画	〃
東京橋場成貢書景	〃	〃	〃
京都橋場之図	大正7年	四芳画	〃
橋場のわたし二景	〃	広重画	東城隆之助氏
満洲川四時一景	〃	北斎画	〃
花と水の巻行巻図	弘化2年	〃	浅草野光通堂
東京橋場図（新下）	明治5年	写し	喜多川周之氏
橋場什足履及び履下	〃	〃	〃
橋場の裏	昭和49年	江戸市初式図説	小島一朗氏
橋場の今昔写真その他	〃	〃	〃

※会場の都合で展示の一部を変更することがあります。
※表紙は天保14年（1843）江戸図をもとに、喜多川周之氏作成のものです。

昭和51年11月

台東区教育委員会

3-15

「あさくさ橋場再見展」（台東区教育委員会 1976年（昭和51））



3-16



3-17

「浅草六区展」（台東区教育委員会 1977年（昭和52））

石版	浅草福音堂裏面欄間	昭和24年	✕
✕	浅草福音堂	昭和25年	✕
木版	浅草福音堂付添図	昭和26年	✕
✕	横正行苦像前門	草書紙	✕
✕	大蔵経深蔵ヒラ	明治28年	✕
✕	真山興行セツ	山内大光元	✕
✕	浅草福音堂公邸一景図	明治30年	✕
石版	東京浅草福音堂風景	明治34年	✕
✕	浅草公園十二増及活動写真館裏面之間	明治43年	✕
✕	浅草公園立大		✕
✕	本館内北西角中島新遊泳之図		✕
✕	浅草寺内土蔵立合		✕
石版	竈火に包まれた浅草福音堂之風景	大正12年	✕
✕	浅草公園遊覧船長十二増之風景	✕	✕
✕	浅草公園十二増及花屋敷付近見橋之状況	✕	✕
✕	浅草広小路及神楽坂付近見橋之状況	✕	✕
地図	東京大蔵東京市全部		✕
	関東興業金地球儀図説		✕
木版	浅草寺千人社図	昭和12年	中川漢理画
背図	東都浅草西草図	昭和14年	菊江家藏
地図	浅草十二所新橋横丁一景図		
✕	東京案内大地図	大正11年	喜多川周之藏
写真	写真六区東行街の景はか多敷		✕
▶浅草オペラ			
パノラマ	浅草オペラと田舎力三	四谷 力三氏	
写真	フアウストの田舎力三はか5		✕
✕	美屋入りする田舎力三	大正8年	
✕	初音館前野球場チーム	大正9年	芝罘グラウンドで
✕	ホームラン・ヒット田舎力三	✕	
✕	船越での田舎力三及びイラスト	✕	金竜館
✕	ギョウカイと3幕目	✕	
✕	✕ の田舎力三	大正10年	金竜館
✕	✕ の船越で田舎と高甲保	✕	
✕	アルカンタラの版者、四谷と安藤文字	✕	
✕	廣雪の皇子田舎力三	✕	
✕	天国と地獄の田舎力三	✕	
✕	カブエの宮あてきん	✕	前田貞一と木村時子
✕	華道の京都御参田舎力三はか	大正11年	
✕	船越帳	大正12年	
プログラム	浅草福音堂館内5段上景		
✕	結団	大正9年	金竜館
✕	旗道	大正10年	✕
✕	アイード	大正11年	✕
資料	田舎力三結しがき	大正10年	金竜館などで用られた
✕	✕ 屋	✕	
✕	✕ 旗道	✕	
✕	✕ デザインの田舎力三	✕	
✕	オペラ館建から浅草義経像		✕

3-18

▶安東郡				
千社札	大和家三姉妹一席			西井八千代氏
観目版	大和家八千代			✕
写真	大和家三姉妹	大正9年	有安館	✕
✕	どじようすくい	大正14年	雪京庫	✕
✕	深屋風景	✕		✕
✕	玉木舞臺部事務所	昭和2年	浅草田島町	✕
✕	永豊泰で	✕		✕
✕	大和家清子	昭和6年		✕
✕	安東郡勢揃い夜看板	昭和7年	雪京庫	✕
✕	浅屋風景	✕		✕
✕	出雲けん	昭和2年	大東京	✕
✕	雪京庫前景	昭和12年	右は松竹庵	✕
✕	雪京庫で幕明けの朝	✕		✕
✕	ジャズ会館風景	✕		✕
✕	安東郡の美しい余興練習風景	昭和13年	雪京庫	✕
✕	市街風景	昭和18年	大和家舞臺裏	✕
✕	緑成のまもり風景	昭和19年	浅草田島町雪京庫	✕
✕	百万ドル景観で	昭和26年	横山エンタツと	✕
✕	風車初子	✕	百万ドル	✕
✕	澤田寛子	✕		✕
✕	大和家八千代	✕		✕
▶活動写真				
ポスター	獅子の爪（他）	大正8年	ユニバーサル	みそのコレクション
✕	ニコニコ大会（他）	✕	チャップリンほか	✕
✕	カチューシャ（他）	✕	日活	✕
✕	血染の囃（パノラ）	大正6年	✕	✕
✕	オペラの怪人（他）	大正14年	ユニバーサル	✕
✕	地獄火組（他）	昭和2年	日活	✕
✕	暗門秘結（他）	✕		✕
✕	真珠夫人（他）	✕	松竹	✕
✕	忠次海馬関（他）	✕	日活	✕
✕	鶴屋天狗（他）	昭和3年	宝プロ	✕
✕	丹下弘（他）	昭和8年	日活	✕
✕	稲田権人（他）	✕		✕
✕	水戸黄門（他）	昭和10年	宝プロ	✕
✕	チャップリン大会ほか多数	✕	日活	✕
プログラム	明治・大正・昭和にわたる浅草映画館プロモイド多数			喜多川周之氏
○会報の紹介で提示の一部を変更することがあります。				
○表紙は大正10年（昭和1）の八区周辺地図をもとに、喜多川周之氏作成のものです。				
昭和52年11月				
台東区教育委員会				

3-19

「浅草六区展」（台東区教委育員会 1977年（昭和52））

新機手勝遊具 美くつ 萬曆板集



下町とどもの遊び屋

[illegible]

出品 52 部

(西 名 物)	(年 代)	(通 号 別 名)
新撰手撰獅子道具づくし	昭和14年	喜多川関之氏
＊ 浅草山笠人組	＊ 3月	＊
＊ 舞踊(バタハヤ)	昭和15年 3月	＊
＊ みる物組	昭和16年	＊
＊ みくじ仕うら	＊ 2月	＊
＊ ふんず曲舞づくし	昭和	＊
＊ 舞のかるわざ	＊	＊
＊ かくべい	＊	＊
＊ 神田さいわいだし屋	＊	＊
＊ 歩きだいばたん組上げ	昭和29年 8月	＊
炭火のつらね	明治	＊
注染子供組	＊	＊
とけし郎	＊	＊
短鬼んこ	昭和30年 8月	＊
＊	昭和39年 9月	＊
短鬼んこ	昭和・大正	岡村一朗氏
短鬼んこ	明治	高橋茂一氏
短鬼んこ	大正	喜多川清之氏
ビー玉	昭和(戦後)	＊
＊	＊	＊
おはじき	＊	＊
伊豆七島のわはじき	＊	山本花子氏
ねっ水	＊	松本壽子氏
大津かるた	＊	喜多川清之氏
トラツプ入るはかるた	＊	＊
真宵入るはかるた	＊	＊
紙入デシリ	大正 2年	＊
小倉百人一首	明治	飯本孝通氏
雪簾かるた	昭和(戦前)	天野壽子氏
犬堀かるた	昭和	森田一朗氏
東京名所遊覧図六	昭和	喜多川清之氏
三越図六	昭和(戦前)	＊
三國漢立巧安六	明治	清水静江氏
八犬伝英算六	＊	山田順大郎

喜多川周之コレクションのタビタビ	昭和（戦前）	天野智子氏
短歌集	〃	森田一朗氏
軍人肖像	〃	〃
喜多川周之	昭和（戦前）	喜多川周之氏
絵合せくじ	〃	〃
けんがわあわせ	〃	〃
面白い子供絵合せ	〃	〃
お蔵出し	明治	岡村一朗氏
読門絵巻写真集	昭和（戦前）	〃
かわり絵	〃	森田一朗氏
明治時代やきいも展覧	〃	〃
かえし絵	昭和（戦後）	〃
竹トンボ	〃	長崎保孝氏
〃	〃	山田城太郎氏
竹けん玉	〃	〃
〃 復讐けん	〃	長崎保孝氏
野宮絵巻	〃	〃
豆餅絵	〃	〃
発射器	〃	〃
割ばし絵巻	〃	〃
〃 漁式	〃	〃
木製箱	〃	松本六郎氏
竹かえし	〃	貝原富美子氏
金魚合タンク	〃	岡中たけし氏
バチンコ	〃	井上憲一氏
金ごまと法印（竹沢周之使用のもの）	明治	石原もと子氏
唐ごま	昭和（戦前）	森田一朗氏
たたきごま	〃	山田城太郎氏
〃	〃	長崎保孝氏
ペーごま高玉	昭和（戦後）	辻井五郎氏
〃 中玉	〃	〃
〃 赤中	〃	〃
〃 高丸六	〃	〃
〃 ペー玉	〃	〃
〃 ペー玉	〃	〃
〃 厚玉	〃	〃
〃 中玉	〃	〃
〃 高丸六	〃	〃
豆餅ごま	〃	〃
大蛇ごま	〃	〃
ツリガねごま	〃	〃
ジャンボごま	〃	〃
エムエムごま	〃	貝原富美子氏
おんぶごま	〃	〃
転写紙	〃	〃
ビニール紙を利用した義経はか	〃	〃
赤電話	〃	〃
初下駄	〃	〃
お手玉	〃	〃
かざぐるま	〃	〃
〃	〃	長崎保孝氏

3-22

手まり	昭和（戦前）	荒川きみ氏
ゆりえ	〃	森田一朗氏
木組	〃	〃
あぶりだし	昭和（戦後）	〃
リリアン	〃	〃
テニシング	〃	〃
豆ノート（ヤイコロ）	〃	〃
大和人形	明治	清水静江氏
きせかえ	昭和（戦後）	喜多川周之氏
細き人形	〃	松本智子氏
空箱でつくった引出しや物入れ	〃	貝原富美子氏
木製玩具の電車	昭和（戦前）	天野智子氏
ブイキ玩具のタンタムシ	昭和（戦後）	森田一朗氏
〃 フレ	〃	〃
〃 ベコベコ	〃	〃
〃 汽笛	〃	〃
かわり花	〃	〃
針金自転車	〃	長崎保孝氏
〃 鉄砲	〃	〃
コリントゲーム	〃	〃
萬草集	〃	〃
万草集	〃	〃
徳永集	〃	鈴木富三郎氏
グライダー	〃	〃
東京金貨民具組合設置報告	明治30年8月	喜多川周之氏
折紙一式	昭和（戦後）	高島秀夫氏
〃	〃	田中玄孝氏
〃	〃	貝原富美子氏
初花	〃	〃
竹馬	〃	山田城太郎氏
〃	〃	松本智子氏
鉄菓子紙一式	〃	〃
〃	〃	鈴木富三郎氏
遊びあかり	〃	長崎保孝氏
〃 種入れ	〃	貝原富美子氏
即次郎一式	昭和6年	松本智子氏
式書物6点	昭和（戦前）	はたまたお氏
鈴丸	昭和（戦後）	森田一朗氏
ダイヤ風	〃	長崎保孝氏
飛行機風	〃	〃
六角風	〃	〃

①会場の都合で展示の一部を変更することがあります。
 ②表紙は新装手廻り手廻り（明治時代）をともに、喜多川周之氏作成のものです。

昭和54年1月

台東区教育委員会

3-23

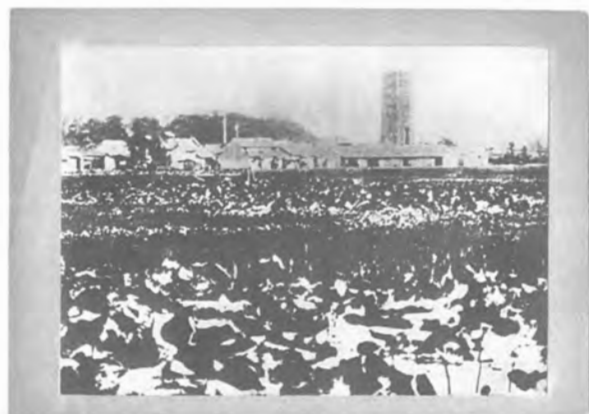
「下町こどもの遊び展」（台東区教育委員会 1979年（昭和54））

(4) 「浅草十二階凌雲閣雑誌」プラン (10870490)

時期は不明であるが、喜多川周之氏は、「浅草十二階凌雲閣雑誌」を企画していたと思われる。朱色の表紙に、画像を張った紙や資料が挟み込まれている。しかし、この雑誌が発刊された形跡はない。



4-1



4-2



4-3



4-4



4-5



4-6



4-7



4-8

浅草12階凌霄閣の建築について

正負 極口甚奇

(1) 目的 現草 12 階凌雲閣は明治、大正時代の東京の名所でありながら建築資料に不明の点が多い。この不明の点について充分の説明をしようとするのが本論文の目的である。



第1回 漫雲閣の回
第2回 怪盗の一夜 (終り)

(2) 通説 凌雲閣は194の工コエル塔(明治22年)、大蔵の眺望閣(明治21年)、大蔵の凌雲閣(明治22年)、東京の富士山遊覽場、浅草の大仏遊覽場、浅草の五重塔修繕の時、足場をつくり遊覽せしむることをおのり影響により、臺座觀覽者の好奇心満足のため②、③、④、⑤、⑥明治23年1月發刊、10月新装發行せり、11月13日より開堂せり。

面積 37.5 坪。カ八角形の建物で階数は 12 階である。10 階までは建ち上り、11 階、12 階は未建である。

高子世不日尺牘至此以物物在

株式会社新親の發起人 田嶋重吉 氏 宛て 工費 4,500 円 附 送
あり 矣。

工事課員は甘和と本寺次郎（西谷川は農田次郎、西谷川は和農田次郎）であった。

工事の設計者は帝國大學の教師 W. K. Blanton 氏である。

工事の現場監督は 工事主 瀬文吉氏 ⑩、⑪、基礎設計は
指図を承る者として 工事主 原野金吉氏 ⑩、⑪、若山良吉氏 ⑩、⑪

凌雲閣は2階から3階まで敷き詰め、奥から9階以上まで修
室、10階は御坐室、11階には50名ほどのアーク座をとり、
12階には30体の立像が揃えられ、エレベーターは設置し
階から1全開から2までまであり、日本最初のエレベーター

のことである。

(3) 疑義を解明

① 高と 平 1 国に見えるより高と平の区別は最も多い。高と平の差と
と見てもわかるが、これは約 200 尺である。平水が明治 40 年後、竹腰、高松三郎の調査により②

階	高さ(床より階間の高さ)	壁厚	窓、戸口の数	階	高さ(床より階間の高さ)	壁厚	窓、戸口の数
第1階	12呎 5吋	3呎 2.8吋	正面、後面出入口、窓6個	第8階	12呎 5吋	2呎 1.0吋	窓16個
第2階	12' 5"	3' 2"	窓14個	第9階	13' 0"	2' 1.0"	同上
第3階	12' 5"	3' 2"	窓14個出入口1個	第10階	16' 0"	2' 1.0"	窓8個
第4階	12' 5"	2' 8.4"	窓16個	第11階	17' 0"	—	窓4個出入口1個
第5階	12' 5"	2' 7.8"	同上	第12階	10' 0"	—	同上
第6階	12' 5"	2' 7.9"	同上	屋根	15' 0"	—	—
第7階	12' 5"	2' 7.8"	同上	5" 高さ以上を判明しない			

5" ありこゝと判明した。

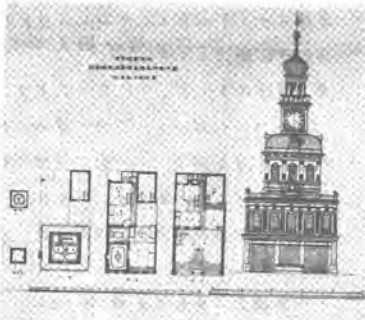
上記のいれかゝる高さの和を求めると172呎4寸となり、大森廣出、物部源太郎の倭高との差の高さとして採用している。^{⑫11}、^{⑫12}、しかしこれに誤りで、調査後片足外へ高さはこの値を算入してない。入口4段の石段の高さも算入してない。入口4段の高さは足外へ高さは10~15呎を入口4段分の高さ18呎^{⑫12}、^{⑫13}、^{⑫14}、^{⑫15}、^{⑫16}、^{⑫17}、^{⑫18}、^{⑫19}、^{⑫20}、^{⑫21}、^{⑫22}、^{⑫23}、^{⑫24}、^{⑫25}、^{⑫26}、^{⑫27}、^{⑫28}、^{⑫29}、^{⑫30}、^{⑫31}、^{⑫32}、^{⑫33}、^{⑫34}、^{⑫35}、^{⑫36}、^{⑫37}、^{⑫38}、^{⑫39}、^{⑫40}、^{⑫41}、^{⑫42}、^{⑫43}、^{⑫44}、^{⑫45}、^{⑫46}、^{⑫47}、^{⑫48}、^{⑫49}、^{⑫50}、^{⑫51}、^{⑫52}、^{⑫53}、^{⑫54}、^{⑫55}、^{⑫56}、^{⑫57}、^{⑫58}、^{⑫59}、^{⑫60}、^{⑫61}、^{⑫62}、^{⑫63}、^{⑫64}、^{⑫65}、^{⑫66}、^{⑫67}、^{⑫68}、^{⑫69}、^{⑫70}、^{⑫71}、^{⑫72}、^{⑫73}、^{⑫74}、^{⑫75}、^{⑫76}、^{⑫77}、^{⑫78}、^{⑫79}、^{⑫80}、^{⑫81}、^{⑫82}、^{⑫83}、^{⑫84}、^{⑫85}、^{⑫86}、^{⑫87}、^{⑫88}、^{⑫89}、^{⑫90}、^{⑫91}、^{⑫92}、^{⑫93}、^{⑫94}、^{⑫95}、^{⑫96}、^{⑫97}、^{⑫98}、^{⑫99}、^{⑫100}、^{⑫101}、^{⑫102}、^{⑫103}、^{⑫104}、^{⑫105}、^{⑫106}、^{⑫107}、^{⑫108}、^{⑫109}、^{⑫110}、^{⑫111}、^{⑫112}、^{⑫113}、^{⑫114}、^{⑫115}、^{⑫116}、^{⑫117}、^{⑫118}、^{⑫119}、^{⑫120}、^{⑫121}、^{⑫122}、^{⑫123}、^{⑫124}、^{⑫125}、^{⑫126}、^{⑫127}、^{⑫128}、^{⑫129}、^{⑫130}、^{⑫131}、^{⑫132}、^{⑫133}、^{⑫134}、^{⑫135}、^{⑫136}、^{⑫137}、^{⑫138}、^{⑫139}、^{⑫140}、^{⑫141}、^{⑫142}、^{⑫143}、^{⑫144}、^{⑫145}、^{⑫146}、^{⑫147}、^{⑫148}、^{⑫149}、^{⑫150}、^{⑫151}、^{⑫152}、^{⑫153}、^{⑫154}、^{⑫155}、^{⑫156}、^{⑫157}、^{⑫158}、^{⑫159}、^{⑫160}、^{⑫161}、^{⑫162}、^{⑫163}、^{⑫164}、^{⑫165}、^{⑫166}、^{⑫167}、^{⑫168}、^{⑫169}、^{⑫170}、^{⑫171}、^{⑫172}、^{⑫173}、^{⑫174}、^{⑫175}、^{⑫176}、^{⑫177}、^{⑫178}、^{⑫179}、^{⑫180}、^{⑫181}、^{⑫182}、^{⑫183}、^{⑫184}、^{⑫185}、^{⑫186}、^{⑫187}、^{⑫188}、^{⑫189}、^{⑫190}、^{⑫191}、^{⑫192}、^{⑫193}、^{⑫194}、^{⑫195}、^{⑫196}、^{⑫197}、^{⑫198}、^{⑫199}、^{⑫200}、^{⑫201}、^{⑫202}、^{⑫203}、^{⑫204}、^{⑫205}、^{⑫206}、^{⑫207}、^{⑫208}、^{⑫209}、^{⑫210}、^{⑫211}、^{⑫212}、^{⑫213}、^{⑫214}、^{⑫215}、^{⑫216}、^{⑫217}、^{⑫218}、^{⑫219}、^{⑫220}、^{⑫221}、^{⑫222}、^{⑫223}、^{⑫224}、^{⑫225}、^{⑫226}、^{⑫227}、^{⑫228}、^{⑫229}、^{⑫230}、^{⑫231}、^{⑫232}、^{⑫233}、^{⑫234}、^{⑫235}、^{⑫236}、^{⑫237}、^{⑫238}、^{⑫239}、^{⑫240}、^{⑫241}、^{⑫242}、^{⑫243}、^{⑫244}、^{⑫245}、^{⑫246}、^{⑫247}、^{⑫248}、^{⑫249}、^{⑫250}、^{⑫251}、^{⑫252}、^{⑫253}、^{⑫254}、^{⑫255}、^{⑫256}、^{⑫257}、^{⑫258}、^{⑫259}、^{⑫260}、^{⑫261}、^{⑫262}、^{⑫263}、^{⑫264}、^{⑫265}、^{⑫266}、^{⑫267}、^{⑫268}、^{⑫269}、^{⑫270}、^{⑫271}、^{⑫272}、^{⑫273}、^{⑫274}、^{⑫275}、^{⑫276}、^{⑫277}、^{⑫278}、^{⑫279}、^{⑫280}、^{⑫281}、^{⑫282}、^{⑫283}、^{⑫284}、^{⑫285}、^{⑫286}、^{⑫287}、^{⑫288}、^{⑫289}、^{⑫290}、^{⑫291}、^{⑫292}、^{⑫293}、^{⑫294}、^{⑫295}、^{⑫296}、^{⑫297}、^{⑫298}、^{⑫299}、^{⑫300}、^{⑫301}、^{⑫302}、^{⑫303}、^{⑫304}、^{⑫305}、^{⑫306}、^{⑫307}、^{⑫308}、^{⑫309}、^{⑫310}、^{⑫311}、^{⑫312}、^{⑫313}、^{⑫314}、^{⑫315}、^{⑫316}、^{⑫317}、^{⑫318}、^{⑫319}、^{⑫320}、^{⑫321}、^{⑫322}、^{⑫323}、^{⑫324}、^{⑫325}、^{⑫326}、^{⑫327}、^{⑫328}、^{⑫329}、^{⑫330}、^{⑫331}、^{⑫332}、^{⑫333}、^{⑫334}、^{⑫335}、^{⑫336}、^{⑫337}、^{⑫338}、^{⑫339}、^{⑫340}、^{⑫341}、^{⑫342}、^{⑫343}、^{⑫344}、^{⑫345}、^{⑫346}、^{⑫347}、^{⑫348}、^{⑫349</}

を注入すると201mm程度なり、これは基礎底面より高さ約20mmを注入すると、高さ約220mmの通水が50mmである。高さ220mmは基礎底面から、斜面上部と高さ50mmより50mmと推定する。

ii) 設計者 Buxton の伝記。これは ⑫ および ⑬ 頁に記述されている。1858年8月1日スマートフォンに記述、1887年帝國大学に衛生工学新設とあるに於き初めてその教師となり、最で別府を僅く兼座学生の教授および上下水道の普及促進に貢献した。帝國大学では建築学科の学生にも講義した。後、台湾に渡り衛生工学の基礎を築いた。⑭ および ⑮ 頁には台湾で果たした功績が長月周之民と確言によって述べられており、あることと相合した。1877年東京で在席し、基は青山墓にはある。和は孝子氏に導かれを基とし、碑文でうたふ。⑯ 頁 ⑰ 頁には Buxton の全水史を1858年としてゐるが碑文の1858年が正しい。本は図書館蔵。



第2回 Bunko PC
(参加員より提供の資料)



第三回 和泉寺決闘の計畫の吉原町村宿
(建築雑誌第29号29)



第4回 吉原新町客 (風俗と戦争と)

ii) 工事請負人、和泉孝次郎、これは和泉次郎、和泉好治郎と文献によつて異なる、確證は未だなし。和泉②は和泉孝次郎と採用しない。和泉孝次郎は戦時中運輸安全委員であり、日本橋区下横町で建築関係事業を営み、戦後26年竣工に際して告知し、下部煉瓦造、上部木造の5階建、在留財料を新屋敷地に移している。その間、その間に示すことがこれである。この建物は和泉面より北面の上部に高さ90尺、階数は五階塔の71の一棟、造面割に類する建物である。このことから建築関係の工事請負人は和泉孝次郎とみることが出来る。②10。

河海大台の現場監督日記 この日は⑮16日、17日、18日。⑮は工事上と工事本部分、河海大台の自然保護事業に10月19日明治25年竣工記念碑が立った。此の大隈公使が在任中に明治23年に建築された。4月、5月、10月に25回も費したことがあり、和歌山へ上るとしてこればかりで数度次郎長が費用入金に河海大台東京在住時代にあり、如奥には河海大台「原」が、つまり人であり、凌雲閣施工に付いて通信その他にも工事は河海大台を仰ぐ。このように河海大台の調査資料は自分らの責任者である以上、これは必ずしも河海大台の現況を知るべきものである。⑯17

[illegible]

11) 凌雲閣落成当時の建群雑誌の紹介記事。明治23年12月号の雑誌欄に「〇瑞雲塔 12階の塔は是日日本一の富塔と云へしと題し尤も東洋高塔の首座を占むることを能はざる人」と云ふ記事があるが少し異なる。当時の所有者の正装は袈裟2枚着、剃金長眉髭連土、首飾瑞雲大さの圓珠1粒とみゆかに記事があり、金銀。

文献目录 ① 服饰画报 琼华公园图 P29 ② 少年画报 少年 P26 ③ 少年 明珠 P25 ④ 少年 明珠 P25 ⑤ 少年 明珠 P25 ⑥ 少年 明珠 P25 ⑦ 少年 明珠 P25 ⑧ 少年 明珠 P25 ⑨ 少年 明珠 P25 ⑩ 少年 明珠 P25 ⑪ 少年 明珠 P25 ⑫ 少年 明珠 P25 ⑬ 少年 明珠 P25 ⑭ 少年 明珠 P25 ⑮ 少年 明珠 P25 ⑯ 少年 明珠 P25 ⑰ 少年 明珠 P25 ⑱ 少年 明珠 P25 ⑲ 少年 明珠 P25 ⑳ 少年 明珠 P25 ㉑ 少年 明珠 P25 ㉒ 少年 明珠 P25 ㉓ 少年 明珠 P25 ㉔ 少年 明珠 P25 ㉕ 少年 明珠 P25 ㉖ 少年 明珠 P25 ㉗ 少年 明珠 P25 ㉘ 少年 明珠 P25 ㉙ 少年 明珠 P25 ㉚ 少年 明珠 P25 ㉛ 少年 明珠 P25 ㉜ 少年 明珠 P25 ㉝ 少年 明珠 P25 ㉞ 少年 明珠 P25 ㉟ 少年 明珠 P25 ㊱ 少年 明珠 P25 ㊲ 少年 明珠 P25 ㊳ 少年 明珠 P25 ㊴ 少年 明珠 P25 ㊵ 少年 明珠 P25 ㊶ 少年 明珠 P25 ㊷ 少年 明珠 P25 ㊸ 少年 明珠 P25 ㊹ 少年 明珠 P25 ㊺ 少年 明珠 P25 ㊻ 少年 明珠 P25 ㊼ 少年 明珠 P25 ㊽ 少年 明珠 P25 ㊾ 少年 明珠 P25 ㊿ 少年 明珠 P25

⑤ 桐野真次郎 明治の建築 P.70 ⑥ 杉野金吾 建築と社会、昭和12. P.66. ⑦ 石井研堂 新時代 1917年2月号 P.18 ⑧ 同 明治の建築 P.64 ⑨ 同 明治の建築 P.114

⑩ 见《善书》第99号P214, 第100号P114, 见《善书》第226号P209页 ⑪ 见《善书》第226号P209页 ⑫ 善书P101, 十二P209页 ⑬ 见《善书》第226号P209页 ⑭ 见《善书》第226号P209页

⑬ 1904年丁巳年 ⑭ 1905年戊午年 ⑮ 1906年己未年 ⑯ 1907年庚申年 ⑰ 1908年辛酉年 ⑱ 1909年壬戌年 ⑲ 1910年癸亥年 ⑳ 1911年甲子年 ㉑ 1912年乙丑年 ㉒ 1913年丙寅年 ㉓ 1914年丁卯年 ㉔ 1915年戊辰年 ㉕ 1916年己巳年 ㉖ 1917年庚午年 ㉗ 1918年辛未年 ㉘ 1919年壬申年 ㉙ 1920年癸酉年 ㉚ 1921年甲戌年 ㉛ 1922年乙亥年 ㉜ 1923年丙子年 ㉝ 1924年丁丑年 ㉞ 1925年戊寅年 ㉟ 1926年己卯年 ㊱ 1927年庚辰年 ㊲ 1928年辛巳年 ㊳ 1929年壬午年 ㊴ 1930年癸未年 ㊵ 1931年甲申年 ㊶ 1932年乙酉年 ㊷ 1933年丙戌年 ㊸ 1934年丁亥年 ㊹ 1935年戊子年 ㊺ 1936年己丑年 ㊻ 1937年庚寅年 ㊼ 1938年辛卯年 ㊽ 1939年壬辰年 ㊾ 1940年癸巳年 ㊿ 1941年甲午年 ㊽ 1942年乙未年 ㊾ 1943年丙申年 ㊿ 1944年丁酉年 ㊽ 1945年戊戌年 ㊾ 1946年己亥年 ㊿ 1947年庚子年 ㊽ 1948年辛丑年 ㊾ 1949年壬寅年 ㊿ 1950年癸卯年 ㊽ 1951年甲辰年 ㊾ 1952年乙巳年 ㊿ 1953年丙午年 ㊽ 1954年丁未年 ㊾ 1955年戊申年 ㊿ 1956年己酉年 ㊽ 1957年庚戌年 ㊾ 1958年辛亥年 ㊿ 1959年壬子年 ㊽ 1960年癸丑年 ㊾ 1961年甲寅年 ㊿ 1962年乙卯年 ㊽ 1963年丙辰年 ㊾ 1964年丁巳年 ㊿ 1965年戊午年 ㊽ 1966年己未年 ㊾ 1967年庚申年 ㊿ 1968年辛酉年 ㊽ 1969年壬戌年 ㊾ 1970年癸亥年 ㊿ 1971年甲子年 ㊽ 1972年乙丑年 ㊾ 1973年丙寅年 ㊿ 1974年丁卯年 ㊽ 1975年戊辰年 ㊾ 1976年己巳年 ㊿ 1977年庚午年 ㊽ 1978年辛未年 ㊾ 1979年壬申年 ㊿ 1980年癸酉年 ㊽ 1981年甲戌年 ㊾ 1982年乙亥年 ㊿ 1983年丙子年 ㊽ 1984年丁丑年 ㊾ 1985年戊寅年 ㊿ 1986年己卯年 ㊽ 1987年庚辰年 ㊾ 1988年辛巳年 ㊿ 1989年壬午年 ㊽ 1990年癸未年 ㊾ 1991年甲申年 ㊿ 1992年乙酉年 ㊽ 1993年丙戌年 ㊾ 1994年丁亥年 ㊿ 1995年戊子年 ㊽ 1996年己丑年 ㊾ 1997年庚寅年 ㊿ 1998年辛卯年 ㊽ 1999年壬辰年 ㊾ 2000年癸巳年 ㊿ 2001年甲午年 ㊽ 2002年乙未年 ㊾ 2003年丙申年 ㊿ 2004年丁酉年 ㊽ 2005年戊戌年 ㊾ 2006年己亥年 ㊿ 2007年庚子年 ㊽ 2008年辛丑年 ㊾ 2009年壬寅年 ㊿ 2010年癸卯年 ㊽ 2011年甲辰年 ㊾ 2012年乙巳年 ㊿ 2013年丙午年 ㊽ 2014年丁未年 ㊾ 2015年戊申年 ㊿ 2016年己酉年 ㊽ 2017年庚戌年 ㊾ 2018年辛亥年 ㊿ 2019年壬子年 ㊽ 2020年癸丑年 ㊾ 2021年甲寅年 ㊿ 2022年乙卯年 ㊽ 2023年丙辰年 ㊾ 2024年丁巳年 ㊿ 2025年戊午年 ㊽ 2026年己未年 ㊾ 2027年庚申年 ㊿ 2028年辛酉年 ㊽ 2029年壬戌年 ㊾ 2030年癸亥年 ㊿ 2031年甲子年 ㊽ 2032年乙丑年 ㊾ 2033年丙寅年 ㊿ 2034年丁卯年 ㊽ 2035年戊辰年 ㊾ 2036年己巳年 ㊿ 2037年庚午年 ㊽ 2038年辛未年 ㊾ 2039年壬申年 ㊿ 2040年癸酉年 ㊽ 2041年甲戌年 ㊾ 2042年乙亥年 ㊿ 2043年丙子年 ㊽ 2044年丁丑年 ㊾ 2045年戊寅年 ㊿ 2046年己卯年 ㊽ 2047年庚辰年 ㊾ 2048年辛巳年 ㊿ 2049年壬午年 ㊽ 2050年癸未年 ㊾ 2051年甲申年 ㊿ 2052年乙酉年 ㊽ 2053年丙戌年 ㊾ 2054年丁亥年 ㊿ 2055年戊子年 ㊽ 2056年己丑年 ㊾ 2057年庚寅年 ㊿ 2058年辛卯年 ㊽ 2059年壬辰年 ㊾ 2060年癸巳年 ㊿ 2061年甲午年 ㊽ 2062年乙未年 ㊾ 2063年丙申年 ㊿ 2064年丁酉年 ㊽ 2065年戊戌年 ㊾ 2066年己亥年 ㊿ 2067年庚子年 ㊽ 2068年辛丑年 ㊾ 2069年壬寅年 ㊿ 2070年癸卯年 ㊽ 2071年甲辰年 ㊾ 2072年乙巳年 ㊿ 2073年丙午年 ㊽ 2074年丁未年 ㊾ 2075年戊申年 ㊿ 2076年己酉年 ㊽ 2077年庚戌年 ㊾ 2078年辛亥年 ㊿ 2079年壬子年 ㊽ 2080年癸丑年 ㊾ 2081年甲寅年 ㊿ 2082年乙卯年 ㊽ 2083年丙辰年 ㊾ 2084年丁巳年 ㊿ 2085年戊午年 ㊽ 2086年己未年 ㊾ 2087年庚申年 ㊿ 2088年辛酉年 ㊽ 2089年壬戌年 ㊾ 2090年癸亥年 ㊿ 2091年甲子年 ㊽ 2092年乙丑年 ㊾ 2093年丙寅年 ㊿ 2094年丁卯年 ㊽ 2095年戊辰年 ㊾ 2096年己巳年 ㊿ 2097年庚午年 ㊽ 2098年辛未年 ㊾ 2099年壬申年 ㊿ 2100年癸酉年 ㊽ 2101年甲戌年 ㊾ 2102年乙亥年 ㊿ 2103年丙子年 ㊽ 2104年丁丑年 ㊾ 2105年戊寅年 ㊿ 2106年己卯年 ㊽ 2107年庚辰年 ㊾ 2108年辛巳年 ㊿ 2109年壬午年 ㊽ 2110年癸未年 ㊾ 2111年甲申年 ㊿ 2112年乙酉年 ㊽ 2113年丙戌年 ㊾ 2114年丁亥年 ㊿ 2115年戊子年 ㊽ 2116年己丑年 ㊾ 2117年庚寅年 ㊿ 2118年辛卯年 ㊽ 2119年壬辰年 ㊾ 2120年癸巳年 ㊿ 2121年甲午年 ㊽ 2122年乙未年 ㊾ 2123年丙申年 ㊿ 2124年丁酉年 ㊽ 2125年戊戌年 ㊾ 2126年己亥年 ㊿ 2127年庚子年 ㊽ 2128年辛丑年 ㊾ 2129年壬寅年 ㊿ 2130年癸卯年 ㊽ 2131年甲辰年 ㊾ 2132年乙巳年 ㊿ 2133年丙午年 ㊽ 2134年丁未年 ㊾ 2135年戊申年 ㊿ 2136年己酉年 ㊽ 2137年庚戌年 ㊾ 2138年辛亥年 ㊿ 2139年壬子年 ㊽ 2140年癸丑年 ㊾ 2141年甲寅年 ㊿ 2142年乙卯年 ㊽ 2143年丙辰年 ㊾ 2144年丁巳年 ㊿ 2145年戊午年 ㊽ 2146年己未年 ㊾ 2147年庚申年 ㊿ 2148年辛酉年 ㊽ 2149年壬戌年 ㊾ 2150年癸亥年 ㊿ 2151年甲子年 ㊽ 2152年乙丑年 ㊾ 2153年丙寅年 ㊿ 2154年丁卯年 ㊽ 2155年戊辰年 ㊾ 2156年己巳年 ㊿ 2157年庚午年 ㊽ 2158年辛未年 ㊾ 2159年壬申年 ㊿ 2160年癸酉年 ㊽ 2161年甲戌年 ㊾ 2162年乙亥年 ㊿ 2163年丙子年 ㊽ 2164年丁丑年 ㊾ 2165年戊寅年 ㊿ 2166年己卯年 ㊽ 2167年庚辰年 ㊾ 2168年辛巳年 ㊿ 2169年壬午年 ㊽ 2170年癸未年 ㊾ 2171年甲申年 ㊿ 2172年乙酉年 ㊽ 2173年丙戌年 ㊾ 2174年丁亥年 ㊿ 2175年戊子年 ㊽ 2176年己丑年 ㊾ 2177年庚寅年 ㊿ 2178年辛卯年 ㊽ 2179年壬辰年 ㊾ 2180年癸巳年 ㊿ 2181年甲午年 ㊽ 2182年乙未年 ㊾ 2183年丙申年 ㊿ 2184年丁酉年 ㊽ 2185年戊戌年 ㊾ 2186年己亥年 ㊿ 2187年庚子年 ㊽ 2188年辛丑年 ㊾ 2189年壬寅年 ㊿ 2190年癸卯年 ㊽ 2191年甲辰年 ㊾ 2192年乙巳年 ㊿ 2193年丙午年 ㊽ 2194年丁未年 ㊾ 2195年戊申年 ㊿ 2196年己酉年 ㊽ 2197年庚戌年 ㊾ 2198年辛亥年 ㊿ 2199年壬子年 ㊽ 2200年癸丑年 ㊾ 2201年甲寅年 ㊿ 2202年乙卯年 ㊽ 2203年丙辰年 ㊾ 2204年丁巳年 ㊿ 2205年戊午年 ㊽ 2206年己未年 ㊾ 2207年庚申年 ㊿ 2208年辛酉年 ㊽ 2209年壬戌年 ㊾ 2210年癸亥年 ㊿ 2211年甲子年 ㊽ 2212年乙丑年 ㊾ 2213年丙寅年 ㊿ 2214年丁卯年 ㊽ 2215年戊辰年 ㊾ 2216年己巳年 ㊿ 221

年論文執業時除以上各款不在要約內者外，同人之口頭聲明書亦在「5.5.4」之內。(大邱工學院 經濟大學教授)

— 812 —

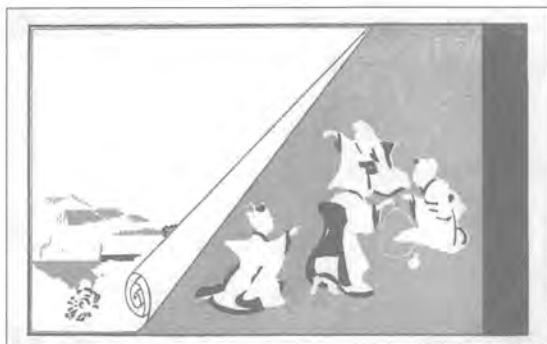
4-10

Fig. 1. Graph of $M(\lambda)$ for $\lambda \in \mathbb{C}$ with $\operatorname{Re} \lambda \geq 0$ and $\operatorname{Im} \lambda \leq 0$.

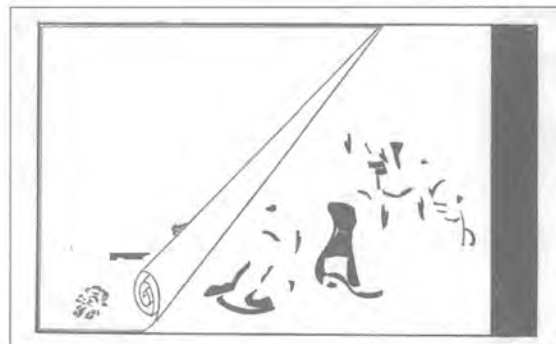
「日本建築学会大会学術講演梗概集」(昭和43年10月)より

(5) 凌雲閣年賀状 (10870489)

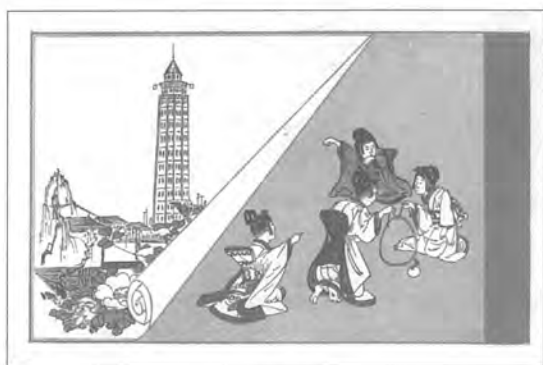
喜多川周之氏は、版下製作を職業としていたが、1965年(昭和40)頃には、凌雲閣を絵柄とした年賀状を自作している。これらは、1967年(昭和42)の年賀状の版下と試刷。(口絵30参照)



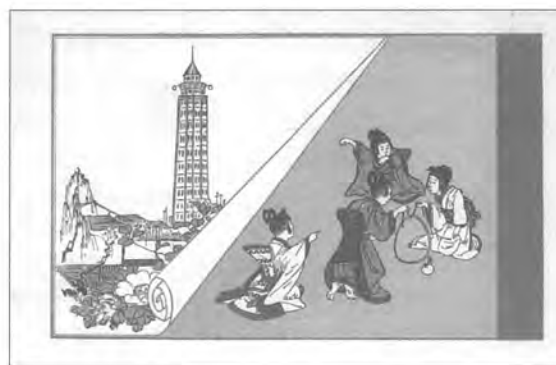
5-1



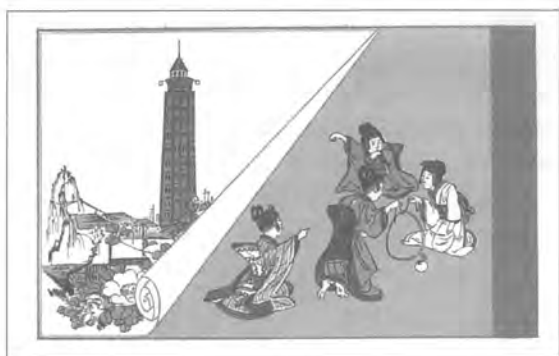
5-2



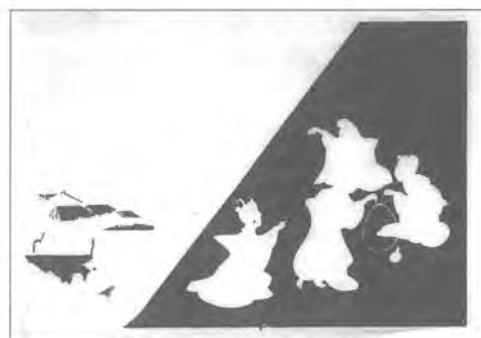
5-3



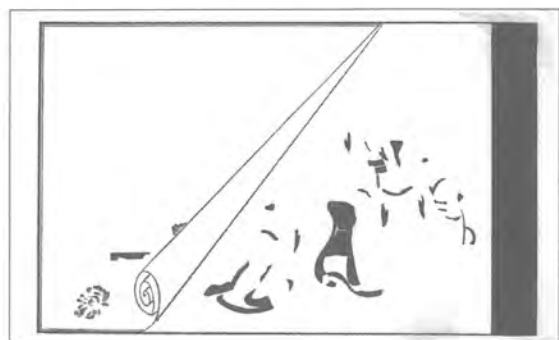
5-4



5-5



5-6



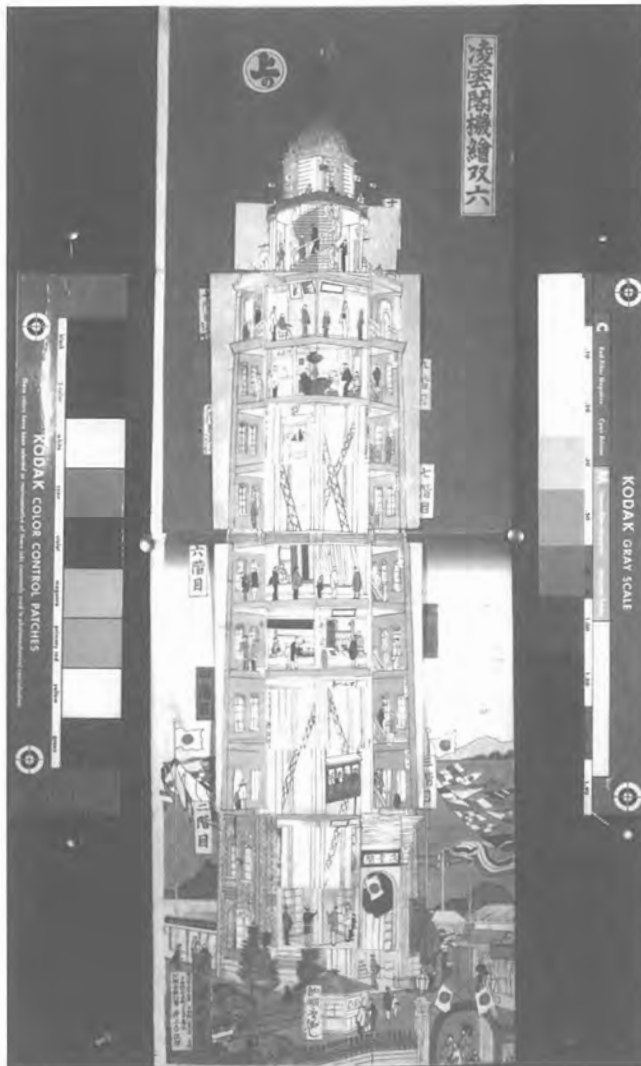
5-7



5-8

(6) その他 (10870491)

喜多川周之氏は、凌雲閣関係の資料は可能な限り収集し、調査も綿密に行っている。「6-1」の写真は、凌雲閣内部のエレベーターの様子分かる珍しいもの。「6-2」は、凌雲閣で行われた百美人投票に関する新聞記事を書きうつしたものの。



6-1



6-2